

地道な説明や絆作りが大切！！

時の窓



172号



2014/12/24

青年協は、2014年11月9日(日)～10日(月)にかけて、第2回常任委員会を開催しました。

今回は、常任委員に加えて、各地から5名のオブザーバーが参加されました！！

【1日目】

常任委員は、各級青年機関の行動経過として、それぞれの担当地区で行われた会議の様子や新採勧誘の状況などを報告しました。各地区で議題として取り上げられることが多かったのは、組織拡大・強化についてでした。

中高年層の脱退や、異動を機に組合とのつながりが途切れてしまうことが残念ながらあるようです…。しかし、新規採用者に対して組合や各種制度についての説明を行ったり、レク活動を行ったりした結果、加入に結びついた支部の報告もありました！！地道な説明や絆作りが、組合員としての一体感を感じるためにも大切です。

続いて、本年度における青年協の具体的な活動について討議・確認を行い、「2014年度全司法青年協運動方針の具体化」を確立しました。

次に、「2014年度秋・年末闘争期における全司法青年協統一要求書」について、各支部青年部等において討議された結果を報告し、さらなる討議を踏まえて確立しました。

各職場でのみなさんの討議のおかげで、常任委員会でも、活発な議論をかわすことができました！！ありがとうございます^^

また、今年度も「青年の暮らしむきアンケート」を実施することを確認しました。例年よりもスケジュールを早め、みなさんに取り組んでいただく期間をなるべく長くとれるようにしました。青年の生活状況は今どうなっているのか、みなさんが今必要としているものはなんなのかをしっかりと調査し、最高裁交渉に生かしていきます。みなさんの自由で率直な意見をたくさん集めたいと思っていますので、ぜひご協力をお願いいたします☆

最後に、各級青年機関の組織実態について、青年組合員を正確に把握することが確認されました。各支部には、これからも各種報告をお願いすることになりますが、みんなで協力しながら、実態に合った報告をきちんとしていきましょう！



中も見てね!!

【2日目午前中】

最高裁給与課長交渉についての打ち合わせを行いました。今回は、**秋季年末闘争期**にあたる交渉です。秋季年末闘争期では、裁判所の予算の中から、各地連・支部に必要な人員やお金を配分していく時期になるので、各地区の状況をしっかりと正確に伝える必要があります。

東北・中部・近畿・九州地区からオブザーバーとして出席された方には、生の声を伝えてもらえるように発言の準備をしていただきました。また、各地区からの追及内容を精査して、午後からの交渉に備えました。

青年の切実な声を最高裁に

青年協は、10月頃と2月頃、そして6月頃の年3回、**最高裁給与課長と交渉**をしています。そこでは、各地区担当の常任委員が、「**青年の暮らしむきアンケート**」や事前に報告してもらった意見を元に、各地区の青年の切実な声を伝えています。また、各地から参加してくれたオブザーバーには、直接、生の声を伝えてもらいます。

11月10日(月)の午後に、今期初めての給与課長交渉を行いました。青年にとって要求の強い賃金や諸手当の改善、切実な異動要求等を求めました。特に今回は人事院勧告で一定の改善勧告(勤勉手当の支給月数の改善、通勤手当の交通用具利用の支給額改善など...)はありましたが、「**給与制度の総合的見直し**」が4月に強行されようとしています。「給与制度の総合的見直し」は、今の青年が直接的に大きな不利益を被るようなものではありませんが、中高年層を中心に大きく給与を抑制する制度です。それは、中高年層になっていく青年にとっては、不安要素でしかなく、また将来設計を妨げるものでしかありません。速やかに中止するよう関係機関に伝えることを要求しました。

また、常任委員会の前日に実施した総研生との意見交換会の中で出た意見や要望についても交渉の場で伝えました。具体的には、①2部生の研修所に入所するまでの自庁での研修期間について、身の置き場の無いような状況にあること、②1部生の入寮案内が3月下旬であり、引越し手続き等が煩雑になり費用や手間が必要以上にかかっていること、③平日の日中しか診療していない専門医へかかるため、休暇の取得ができるか相談したところ、研修期間中にどうしても受診しなければいけないものではないと示唆されて休暇を取得できなかったこと、④総合研修所に対して意見を伝えるには、研修日誌や、振り返りシートだけしかなく、研修生からの意見の吸い上げを随時行う仕組みが必要であること、⑤喫緊の問題として、2部2年生が現在利用している教室のプロジェクターが不具合により非常に見えにくい状況にあり、それがおよそ半年近くの間続いていることなどを伝えました。

なお、プロジェクターの問題については、交渉後、他の教室のものと交換し、早期に改善されたとのことです！！(詳しくは、青年協の情報paper「**NetWork No.160(11月21日付け)**」をご覧ください。)



昨年に引き続き

総研生との意見交換会を開催！！あれからどうなった？

青年協は、11月8日(土)、東京都豊島区にある全医労会館において「総研生との意見交換会」を開催しました。

この「総研生との意見交換会」は、総研生に青年層の職員が多いことを踏まえ、総研での研修期間中に組合の情報に触れる機会を作り、研修所での生活・研修内容等についての意見交換を行い、総研生から率直な意見を聴取することを目的に、昨年も開催しました。参加してくれた総研生から「総研生が意見を言える場が欲しい」、「また意見交換会を開催して欲しい」などといった意見が寄せられたことから、今年も開催することとしました。

参加者

総研生14名
オブザーバー6名
(いずれも青年組合員)

今回は昨年と異なり、過去と現在の総研生活を比較するため、総研を卒業して任官している書記官の方々にもオブザーバーとして参加してもらいました。



全体会の様子

全体会では、自庁研修において研修スペースは確保されていたか、研修環境について問題はなかったか、総研の庁舎設備は問題ないか、休暇は取得しやすいかなどといった話をしました。

自庁研修では、各地家裁で研修環境が大きく異なっていることが明らかになりました。机が用意されておらず、ミーティングテーブルで研修をしていたり、自前のパソコンやプリンターを用意しなければならなかったりといった様子で、充実した環境で研修を行うことができたという報告を羨む声もありました。

総研の庁舎設備については、2部2年生が講義の際に利用している教室のプロジェクターが故障しており、講義を受けるのに支障がでているといった声がありました。

休暇については、通院のため休暇取得を相談してみたものの、「研修期間中に受けなければならないものではない」と認められなかったことなどの声があり、研修中の休暇取得は変わらず困難だということがわかりました。

総研生が一番困っていることは、情報が総研から総研生においてこないことでした。例えば、プロジェクターはいつ直るのか、そもそも修理しているのか、全く情報がないことから毎日不安な気持ちで講義を受けているとのことでした。

分散会の様子

1部生と2部生では研修カリキュラムが異なることから、分散会を行いました。

1部生の分散会では、今年度から「課題」ではなく、午後の講義時間に「レポート」を提出する方式に変わったことがわかり、総研生からは、講義後の時間を有効に活用できるという意見がありました。また、「振り返りシート」の配布時期について、研修の最後では記憶の喚起が難しいため、前期・後期研修後にそれぞれ配布してほしいとの意見もありました。

2部生の分散会では、長期間にわたる研修の中で、講義の組み方や講義の回数を適宜見直してほしい、1部生や調査官補と一緒にグループ別課題は、日程調整等に時間がかかるため負担であるといった意見がありました。

また、1部生と2部生の共通の意見としては、日誌以外にも研修や寮生活などに対する意見を総研に伝えられる仕組みがほしいこと、カリキュラムの開示時期にムラがあるので、講義の準備をするためにも早めに開示をして欲しいことがあげられました。



懇

親

会

意見交換会後は、総研生やオブザーバーのみなさんと懇親会を行いました！
懇親会は、意見交換会で話しきれなかったことを話し合ったり、総研生がオブザーバーの先輩書記官からアドバイスをもったりするなど、総研生と先輩書記官とのつながりができた場となりました。



今後も定期的な開催が必要！

青年協は、11月9日から11月10日にかけて常任委員会を行い、意見交換会で出た意見の中で何を当局に伝えるかを検討し、交渉の場で当局に伝えました(詳細は本紙1～2頁)。

時間の都合上、意見交換会で出たすべての意見を伝えることはできませんでしたが、今、総研生が感じていること、不安・不満に思っていることを率直に伝えることができたと感じています。

総研生との意見交換会について、青年協は、オブザーバーからのアドバイスもあって総研生からより率直な意見を聞いたこと、総研生に組合との関わりを感じてもらえたことなどを受け、今後も定期的な開催が必要だと考えています。

総研生とオブザーバーの方からの感想

福岡支部 広崎壮太さん(オブザーバー)

意見交換会にオブザーバーとして参加しました。参加する前は、特に不満などの意見は出ないと思っていましたが、思った以上に総研生から不満の意見が出て驚きました。こういった総研生が抱える不満や総研に関する問題については、組合で取り組むべき問題だと思いました。

中でも、総研に関する情報が総研生に伝わっていないことが一番問題だと思います。総研生が不安にならないよう、情報を伝達するしかるべきシステムを考えて欲しいです。

徳島支部 大崎学さん(オブザーバー)

今回、初めてこのような会に参加させて頂きまして、研修生時代に自分が感じていたことを思い出すとともに、今の研修生も自分たちのときと同じように、色々と思うところがあるのだなと感じました。今回の会が出た意見が、これからの研修をよりよくしていってもらえればと思います。

愛知支部 正木景子さん(総研2部2年生)

今回、意見交換会に参加させていただいて大変勉強になりました。今、他の総研生がどのような問題意識をもっているのかを共有することができましたし、また、先輩方の代からどのような点が改善されたかも知ることができ、意見交換会の成果も感じました。今年の意見交換会の意見も、来年以降の総研生の研修生活の一助になったら幸いだと思います。意見交換会に参加して本当によかったです。

立川支部 田村正和さん(総研1部生)

総研での生活で、研修生が持っている意見を共有できる機会を設けていただき、大変有意義でした。普段言うことができないこともざっくばらんに、話せたので今後もこのような会があるとありがたいと思いました！

次号予告～時の窓173号～

年頭議長挨拶、青年の暮らしむきアンケート実施中について